

# 2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年 4月 23日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	鈴木 直志
研究課題	アフターコロナ時代を勝ち抜くための中小製造業の技術経営				
研究キーワード	中小製造業、技術経営	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	8. 働きがいも経済成長も	12. つくる責任 つかう責任	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>中小製造業は、バブル崩壊以降、企業数が激減している。一方で、高い技術水準を核に競争力を発揮している中小製造業も存在する。バブル崩壊以後の荒波を乗り越えた成功要因は技術経営に鍵があったのではないかと、その内容を明らかにすることが問題意識である。中小製造業を取り巻く急速な環境変化を踏まえながら、これまでに明らかにしてきた中小製造業の競争力の源泉の内容を深化させ、2017年3月に学位論文として取りまとめ、2019年度は、この研究成果をさらに深化・普及させるため、2019年4月30日に学術図書を出版した。しかし、中小製造業を取り巻く環境は、研究のベースとした調査資料の状況から大きく変化した。2020年度は、第四次産業革命とも言われる中小製造業を取り巻く急速な環境変化を踏まえ、これまでに分析し明らかにした研究内容を深化させた。2021年度は、上記環境変化に加え、2020年から続くコロナ禍、また2022年2月に勃発したウクライナ危機、さらには急激な円安の進展・原材料の急騰など、中小製造業を取り巻く経営環境が劇的に悪化した中で、それまでの研究内容を深化させた。2022年度では、継続したコロナ禍、サプライチェーンの分断、地政学的脅威の激化、円安基調や原材料高の継続、人材確保難などにより、中小製造業を取り巻く経営環境は厳しさを増した。上記のような外部環境の変化を踏まえて、2022年度も中小製造業の競争力の源泉の内容を明らかにするため、新たな資料の二次分析を行った。当初の計画どおりに研究が進展し、一定の成果を達成した一方で、中小製造業を取り巻く上記のような経営環境の悪化の継続により、当初予定していた中小製造業におけるフィールドワークは中止せざるを得なかったために、一部に進捗の遅れが発生した</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載） 2019年度に発行した、【著書】『中小製造業の技術経営－持続的競争力の源泉を確保するには何をなすべきか』、単著（鈴木直志）、2019年4月30日発行、株式会社同友館。 に関して、本学大学院中小企業診断士養成プログラムの授業教育においてテキストの一部として活用したり、外部の中小企業支援者、中小企業研究者、中小企業経営者など幅広い対象者との情報交換時において当該単著の研究内容を披露したりすることなどにより、その研究成果を幅広く普及させた</p> <p>3. 主な経費 上記の研究を進めるために必要となった、文献調査、資料の二次分析、白書・統計資料等の資料の情報収集と分析・整理、最新の先行研究の整理などのため、ノートパソコンの備品購入費、関連の文献書籍の購入費、関連学会の年会費、資料整理のためのプリンタトナーの消耗品費などが主な経費である。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等） 特になし</p>					
(本文は2ページ以内にとめること)					